

## 早稲田大学 法学部 日本史 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	早稲田の中では、法学部はわりと「知識量」というか「語彙量」で解く問題が多いイメージがあるが、今回は「考えて」解く問題が目についた。明治・立教大クラスの入試問題とは、その辺りに格の違いがあって、早大日本史に対する準備が必要となってくるのである。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	古代・中世の史料	問3は「お」が嵯峨天皇の時代ととらえる考えもあるが、あきらかに誤っている「う」を選んでおこう。問5は応天門の変の時の政権は基経の父良房だが、「昭宣公」は基経のおくりなだった。「昭宣公」だけで解答を導き出す問題は、めったに出題されず、難問。	易
II	中世・近世の「徳政」	問1・3・5・6など、早とちりすると間違える問題が多く、意外と点差がついたかもしれない。問5・6がやや難しく、問10が難問である。この大間で7割は正解しないとまずいだろう。	標準
III	明治時代の政治・外交	早稲田が好む憲政党関係が出題されている。問3・7がやや難しい。問4・5・10は『ネーション』だけで、徳富蘇峰の『国民之友』に思い至ればすばらしいが、それができなくても「遼東還付」で「精神的にほとんど別人となった」からはっきりするだろう。社名は雑誌名の「二字を抽出した」ことも大きなヒントになる。1994年慶應大法学部でも同じ文章を使って、類似問題が出されていたため、早慶大の両方をめざす法学部志望生で過去問をそこまで解いていた人にはうれしかった問題だろう。今年度は慶應大文学部の過去問を45年分解いた人もいたほどだから。	標準
IV	戦後の賠償問題	問1・5・6・8はやや難しい。ただし、勘で正解してしまう人も結構いるようだ。問2・9は難問。問2の「ケナン」は誰も正解できないだろう。2005年3月に亡くなった人物であった。	やや難